



前南進路だより

R7・第21号 1月30日発行

1、2026年度大学入学共通テスト分析報告会（河合塾）

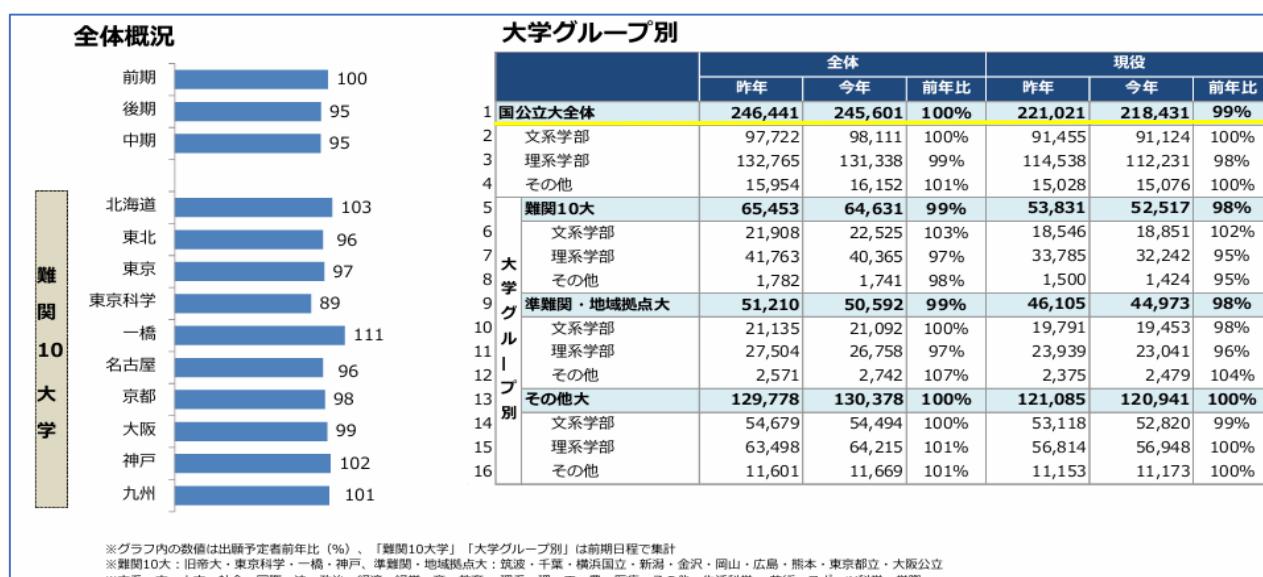
大学入学共通テストから約2週間が経過し、国公立大の出願の締め切りも近づいております。そして、私立大の一般選抜も始まり、国公立大の2次（個別）試験の学習との両立てで忙しい日々が続きます。3年生は体調管理に努め、一つ一つの入試に全力で臨んでほしいと思います。今一度、2026年度共通テストの全体動向について、河合塾の分析報告会の資料をもとに確認をしたいと思います。1・2年生もぜひ参考にしてください。

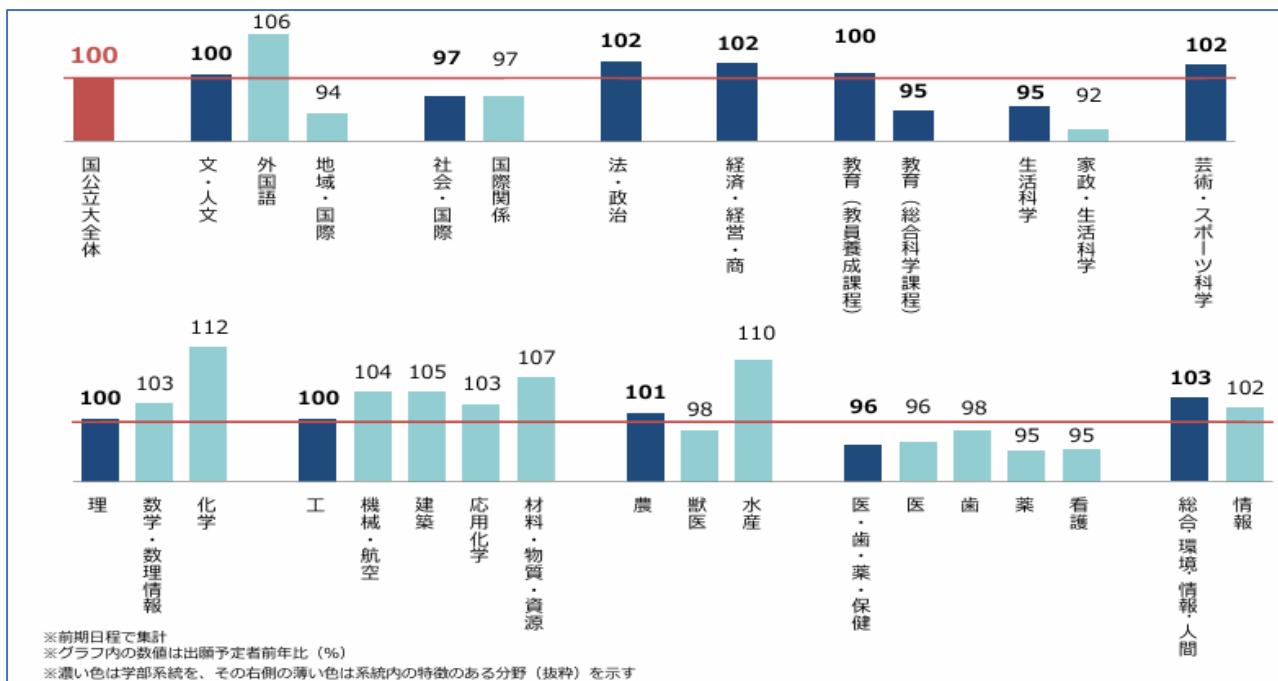
（1）共通テスト 志願者数・受験者数



共通テストの志願者数・受験者数は前年並みとなり、少子化の影響で過去3年間の志願者数は約49万人で推移しております。今年は、既卒が前年比109.8と増加しており、2浪生が増加しているようです。

（2）国公立大の志望動向（全体概況）・系統別

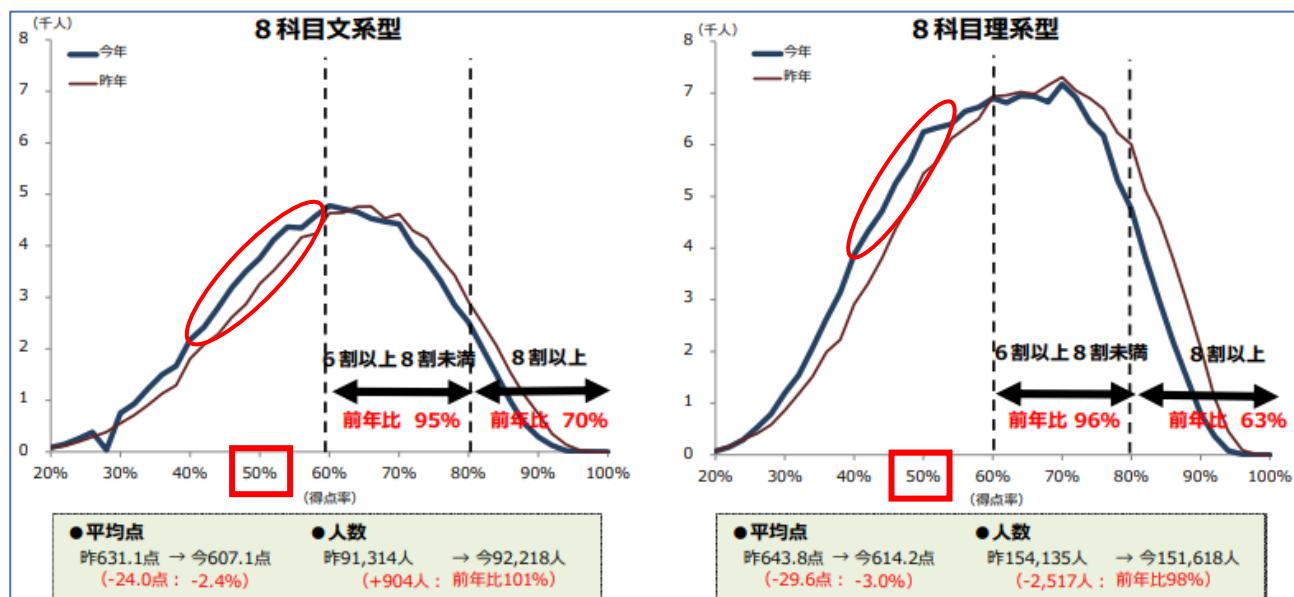




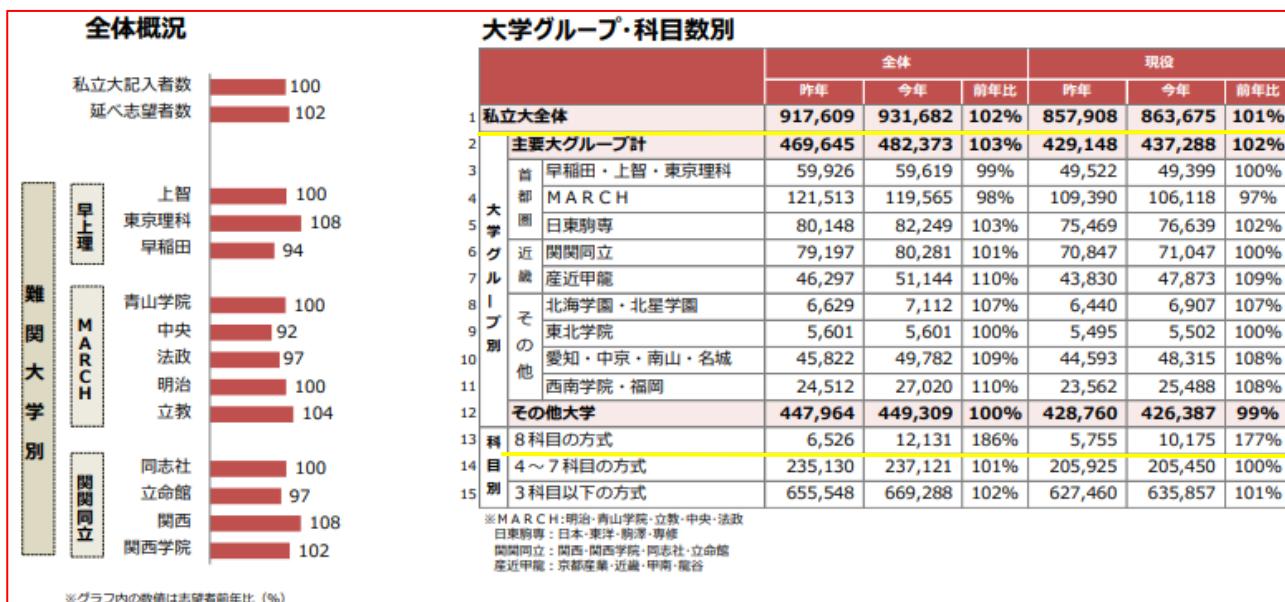
国公立大の志望動向については、中期・後期日程で前年比 95 と若干減少したものの、その他については、ほぼ昨年度並で推移しているようです。「難関 10 大学」や「準難関・地域拠点大」の志望動向も全体で前年比 99 とほぼ変わりません。ただ、理系に限定すると前年比 97 ということで、共通テストの平均点が下がったことによる安全志向がみられます。下図のように、共通テスト 8割以上の得点者は 8 科目文系型では前年比 70%、8科目理系型は前年比 63% に減少しています。また、6 割以上 8 割未満の得点者も前年比 95~96% と減少している一方で、5 割前後の得点者が増加しております。そのため、国公立大の 2 次（個別）試験で配点が高い大学においては、逆転を狙って出願する受験生も多くなることが予想されます。改めて、あと 1 か月間しっかりと対策をする必要があると思います。

系統別は、[法・政治]・[経済・経営・商] で増加しており、[医・歯・薬・保健] などの医療系で減少がみられます。

※8科目受験者の得点分布（リサーチ参加者）



(3) 共通テスト利用私立大の志望動向（全体概況）・系統別



共通テスト利用私立大の志望動向については、【手厚く】出願する傾向がみられます。難関大学別でも、前年度に比べて増加している大学が多数存在し、共通テスト利用による合格者が増えると、一般選抜で合格者の絞り込みも予想されます。下図のように、国語と数学IAの平均点が下がった影響で、共通テスト3科目受験者の8割以上の得点者は減少しており、得点率による合格のボーダーも下がる可能性もあります。また、最難関・上位私大で国公立大併願者を対象に実施されている8科目方式では、前年比全体で186と増加しております。「2026年度の共テは難化する」という声の影響もあり、併願校の一つとして考えている受験生がいた模様です。系統別では、[農]と[医・歯・薬・保健]で増加しております。

※3科目受験者の得点分布（リサーチ参加者）

